

# 知っていますか？郷土の民話

## 鼠観音

今月のお話は上郷の県道下岡本・上三川線の東側の水田内にある、木に囲まれた小さなお堂「鼠観音」についてのお話です。

昔々、一匹の鼠が住んでいました。鼠は道路を通る立派な馬を見ながら、「あんな馬の姿になって、思う存分走れたらいいなあ。」と考えていました。ある晩のこと、鼠の夢枕にお地蔵様があらわれ、こう話しかけました。「私は上半身だけの姿なので歩くこともできず、世間の様子もわからない。お参りに来る人もなく、相談相手もないので困っている。三十五日間私のために尽くしてくれるのなら、願いを叶えてあげよう。」鼠は目が覚めると、道路の側にあるお堂に向かい、中に入りました。すると夢で見たお地蔵様が、ひっそりと座っていました。そして、その日から鼠はお地蔵様の世話を始めたのです。

賢く働き者の鼠は、せっせと食事を運び、世間での出来事を伝え、早く馬になれるようお祈りを捧げました。そしていよいよ三十四日目が出てきました。明日は願いが叶う日ということで、いても立ってもいられませんが、鼠は夜通しかかって、お地蔵様に明日のお供え物をせっせと運びましたが、喜びのために我を忘れ、道を歩いていた貧しい女の子に飛びつき、持って

いたお菓子を無理やり奪ってしまったのです。

鼠は何喰わぬ顔でお地蔵様の元に戻り、女の子から取り上げたお菓子を差し出し、「早く馬の姿にしてください。」と頼みました。お地蔵様は黙って顔を見つめると「よろしい。今すぐにしてあげよう。」と言いました。鼠は目を閉じると、馬の姿に変身したように感じました。鼠は喜び、水を飲もうと小川に行くと、顔だけが馬になり、体は以前のままである自分の姿が、水面に映り驚きました。恥ずかしく思った鼠は、お地蔵様の後ろに隠れるために、祠の石の壁を彫り続け、部屋を作ると、その中に座り込み、やがて息を引き取りました。

哀れに思ったお地蔵様は、鼠の失敗を許し、変わり果てた姿のままの馬頭観音とし、世の人々を救済する菩薩様の一員に加えました。これを知った村人たちは、朱塗りのお堂を作り、かわいそうな鼠の名前をとり「鼠観音」と名づけ、供養し続けたとのことです。



鼠観音の小さなお堂

## 広報短歌

豪雨のはざまに生れし青空に

天地一パイ鳴く蝉の声

蝉の声か細くなりし菩提寺に

緑を澄ます水琴のおと

雨しとど出湯の町の家並の

軒端のあかりか細く滲む

シャンシャンと雨の歩道をトテ馬車の

蹄の音のみ軽やかなりき

蜻蛉の触れて去りにし萩の枝に

高田 幸子

老人のホーム賑はふ納涼祭

さゆれ残れる秋日和なり

介護士ゆかたの華となりつつ

稲葉 敬子

運動会果てて一しほ暗き庭

梢に万国旗一つ残れる

ひと夏を鎖されしままに過ぎゆきて

門扉の隙に草穂のび出づ

秋立ちて生徒の声を校庭に

斎藤 アツ子

ペダル踏む吾に声かけ若き人

久々と聞く夏休み明け

横断歩道を渡りきるまで

菊地 美代